

第 73 回 日本印度學佛教学会学術大会

第 3 部会

妙喜世界と正法護持

宗教情報センター研究員 佐藤 直実

2022 年 9 月 4 日 10:40～

②

0. 発表の趣旨

大乘『大般涅槃經』に記される妙喜(Abhirati)世界の特徴について確認し、正法護持と正法の消滅について考察する

1. 妙喜世界とは

- **阿閼仏 Akṣobhya** の主宰する東方・仏国土
- 最初期の大乗經典『**阿閼仏国經 Akṣobhyatātāgatasya vyūha**』に初出ⁱ
- 人・天のみが住んでいる，悪趣がない，悪人がいない
- 山や谷などの高低差がない，大地は平坦で柔らかい
- 食べ物や衣服，装身具などの生活用品が，木に手を伸ばせば，のぞみ通りのものを得ることができる
- 女性がいる，声聞と菩薩が共存している，欲望が若干ある
- 妙喜世界に生まれるには「禁欲行」をなす必要がある

2. 阿閼仏・妙喜世界について言及する他の大乘経典ⁱⁱ

- 『法華経』 「化城喩品」

阿閼仏は、過去世において、阿弥陀仏や釈尊の兄弟として描かれる

大通智勝如来の16人の息子の長男、法華経の功德により成道した

※6番目の王子が阿弥陀仏、16番目が釈迦牟尼仏

「妙喜世界」に関する記述はない

- 『般若経』

「禁欲行をなせば生まれることのできる世界」

「禁欲行をなすための場所」「恐れの心を抱かない場所」

- 『維摩経』

維摩居士の故地

そこに生まれたい者は禁欲行に励むべし

※『般若経』と『維摩経』は『阿閼仏国経』の記述に準じた内容ⁱⁱⁱ

- 大乘『大般涅槃経』 「金剛身品」

※『阿閼仏国経』には説かれない内容を記す

妙喜世界は「正法護持者」が死後に生まれる世界

※破戒者たちから持戒比丘を命がけで守る者たち

3. 金剛身品の内容：如来が金剛身を得た理由

- 『涅槃経』 初期に成立，サンスクリット断片あり^{iv}

- 漢訳2本，チベット語訳1本

※チベット語訳には漢訳からの重訳あり

- 釈尊が迦葉菩薩に「今や如来の体は法身であり，金剛の如く常住，不壊である (MTib§144 [6A])」ことを告げる。

※セクション番号は Habata2013 と下田 1993 に基づく

- 迦葉菩薩は釈尊に質問。釈尊はそれに1つ1つ返答しながら，如来がなぜ金剛身を獲得できたのかその理由について述べる。

「金剛身を得たのは，すなわち釈尊が過去世で正法を護持したから」

末法の時代に、破戒僧者たちが清浄な持戒比丘を殺そうしたので、過去世での釈尊は武器を持って戦い、命がけで清浄比丘を守った。

この逸話を通して、釈尊は迦葉菩薩に、正法を護持するためであれば、五戒や在家者の戒を守る必要はなく、武器を携えてでも持戒比丘を守ることが大切であると説く。

● 迦葉菩薩の質問

- ① 如来は今まさに般涅槃するのだから、その体は金剛不壊身ではなく、壊れる体・塵の如き体・肉身のほずではないか？
- ② 金剛の如き不壊身はどうすれば完成するのか？
- ③ 守護者を同行させない者が「出家者 dge slong, 比丘」であり、守護者を同行させる者は「在家の坊主 khyim bdag mgo reg, 禿居士, 剃頭居士」ではないのか？

3.1 迦葉菩薩の質問①

如来は今まさに般涅槃するのだから、その体は壊れる体・塵の如き体・肉身のほずではないか？

MTib§147 【6D】 D47a2, P47a4

'od srung chen po dang rus gcig pa de bzhin gshegs pa'i sku ni de bzhin gshegs pa nyid kyis mtshan ma'i dngos po rnams kyi sgo nas thugs su chud par spyod kyi / nyan thos dang rang sangs rgyas thams cad kyis ni mi nus so // de bzhin gshegs pa de lta bu'i yon tan dang ldan pa sha'i sku ma yin pa la / kham pa'i snod bzhin du nad dam / gnod pa 'am / 'jig par ga la 'gyur // 'jig pa dang / na ba dang / mya ngan las 'da' bar ston pa gang yin pa de ni gdul bar bya ba'i dbang gi phyir yin par blta bar bya'o // de bas na deng phyin chad de bzhin gshegs pa'i sku rdo rje ltar mi shigs shing mkhregs par yid la gyis shig / gzhan dag la yang sha'i sku ma yin no // zhes ston cig / de bzhin gshegs pa ni chos kyi sku yin par khong du chud par gyis shig /

摩訶迦葉と同じ家系の者（迦葉菩薩）よ、如来自身は、如来の体を諸々の特徴の門から理解するのだが、いかなる声聞と独覚も [理解] できないのである。そのような特性を持つ如来は、肉身ではないにもかかわらず、褐色の容器（古びた容器？）のように病氣や怪我や衰退に向かうだろうか？ 衰退と病氣と涅槃を示すのは、教化力の故であると知りなさい。それ故今後は、如来の身体は、金剛の如く不壊で、堅固であると考えなさい。他人にもそのように [如来の身体は] 肉身ではないと説きなさい。如来は法身であると理解しなさい。

MCh.D:383b9 迦葉 如來真身功德如是 云何復得諸疾患苦 危脆不堅如坏器乎 迦葉 如來所以示病苦者 爲欲調伏諸衆生故 善男子 汝今當知 如來之身即金剛身 汝從今日常 當專心思惟 此義莫念食身 亦當爲人說 如來身即是法身

MCh.F:866b19 如是迦葉 如來身相者 作聲聞辟支佛 所知如是成就如來身者 是爲法身非穢食身 云何當有若病若惱若壞如坏器耶 隨受化者現老病死 如來法身金剛難壞 迦葉 汝從今日當作是知 如來身者非穢食身 廣爲人說從妙因生則爲法身 爲金剛身爲淳厚身 當作是知常住法也

答) 衰え・病気・涅槃を示すのは方便のためである。それ故、如来の体は金剛・不壊・堅固であると理解し、他の人々にも如来の体は肉身ではないことを伝え、法身であると理解しなさい。

3.2 迦葉菩薩の質問②

金剛の如き不壊身はどうすれば完成するのか？

⑧

MTib§149 【6F】 D47a7, P47b1

bcom ldan 'das kyiis bka' stsal pa / nga'i sku 'di lta bu ni dam pa'i chos srung ba'i bsod nams kyi rgyus grub pa yin no // rigs kyi bu dam pa'i chos srung ba'i dge bsnjen gyis ni bslab pa'i gzhi lnga blang bar mi bya'o // dge bsnjen gyi 'dul ba yang spyad par mi bya'o // tshul khirms dang / cho ga dang yon tan dang ldan pa'i dge slong rnams bsrung ba'i phyir mda' gzhu dang / ral gri dang mdung thung kha leb lag tu thogs par bya'o //

MCh.D:383b19 佛言迦葉 以能護持正法因緣故 得成就是金剛身 迦葉 我於往昔護法因緣 今得成就是金剛身常住不壞 善男子 護持正法者 不受五戒不修威儀 應持刀劍弓箭鉞槊 守護持戒清淨比丘

世尊は〔迦葉菩薩に〕おっしゃった。このような私の身体は、正法を護持した功德の因によって完成したのである。善男子よ、正法を守る在家者は、五戒を受けるべきではない。在家者の律も実践するべきではない。戒律・儀軌・徳力をそなえた出家者たちを守るために、弓矢・劍・短槍を手に入れるべきである。

MCh.F:866b29 佛告迦葉 護持正法功德爲因 迦葉白佛 云何護法 佛告迦葉 其護法者 非爲五戒亦非習行賢者律儀 於惡世中不惜身命 執持利器防護法師 諸持戒者是爲護法

答) 正法を護持した功德で完成したのである。正法を護持する在家者（優婆塞）は、五戒や在家者の律を守るよりも、戒律・儀軌・徳力をそなえた出家者（MTib: dge slong, MCh.D: 比丘, MCh.F: 法師）たちを守るために、弓矢・劍・短槍を手に入れるべきである。

3.3 迦葉菩薩の質問③

在家者の守護者を同行させない出家者が「出家者 dge slong, 比丘」であり、守護者を同行させる出家者こそが「在家の坊主 khyim bdag mgo reg, 禿居士, 剃頭居士」ではないのか？

MTib§151 【6H】 D47b3, P47b5

bcom ldan 'das kyis bka' stsal pa / rigs kyi bu khyim dbag mgo reg ces de skad ma zer cig / 'di na dge slong la la mal stan sar pa la 'dug cing de zan zos nas gcig bu phyogs gcig na mi smra bar 'dug ste / bsam gtan byed la / lus kyi rang bzhin la yang lta bar byed do // sems can 'ongs pa rnams la sbyin pa'i gtam dang / tshul khriims kyi gtam dang / bsod nams kyi gtam dang / bsod nams kyi rnam par smin pa'i gtam dang / chog shes pa dang bsnyung ba'i chos ston la / seng ge'i sgra sgrogs par yang mi byed / seng ge lta bu'i 'khor yang mi 'chang / rtags can 'chal pa tshar gcad pa'i phyir yang ston par mi byed pa'i dge slong de ni skye bo thams cad la phan pa'i phyir zhugs pa yang ma yin / bdag la

世尊は〔迦葉菩薩に〕おっしゃった。「善男子よ、「在家の坊主」とそのように言うてはならない。この場合、ある比丘が新しい座具に座って、その(?)食べ物を食べてから、一人で一隅に黙って座り、禪定して体の本質を観察し、やって来た衆生たちに、布施の話や戒の話、福德の話、福德が実る話、知足と齋戒の法を説く時に、獅子吼をなさず、獅子の如き眷属も持たず、悪人？（生殖にかかわる違反者？）を調伏するために説くことをしない比丘はあらゆる生類を利益するために努力せず、自分を利益するためにも努力しない。

phan pa'i phyir zhugs pa yang ma yin te / nyon mongs pa zhan pa yin pas tshul khriims dang ldan pa tshangs par spyod pa tsam du zad do // ... (中略) ... rgyu des na rgyal po dang / blon po dang / dge bsnyen rnams la dam pa'i chos bsrung ba'i phyir ngas dge slong rnams bsrung bar yang gnang / khyim bdag mgo reg rnams chad pas gcod du yang gnang ngo // de la tshul khriims 'chal pa gang yin pa de dag ni khyim bdag mgo reg ces bya ste / de ni tshul khriims dang ldan pa'i tshiq bla dags ma yin no //

煩惱が弱いので戒律をそなえた梵行だけで終わってしまう。… (中略) …その理由で、王と大臣と優婆塞たちに対して、正法を護るために、私は比丘たちを護ることを許し、在家の坊主たちを処罰することも許したのである。ここでは、戒を破る者たちを「在家の坊主」と呼び、この者は持戒者の呼称ではないのである。

MCh.D:383b29 佛告迦葉。莫作是語言禿居士。若有比丘隨所至處供身趣足。讀誦經典思惟坐禪。有來問法即爲宣說。所謂布施持戒福德少欲知足。雖能如是種種說法。然故不能作師子吼。不爲師子之所圍遶。不能降伏非法惡人。如是比丘不能自利及利衆生。當知是輩懈怠懶墮。雖能持戒守護淨行。當知是人無所能爲。… (中略) … 以是緣故我聽國主群臣宰相諸優婆塞護說法人。若

MCh.F:866c7 佛告迦葉。莫作是語。所以者何。若有獨處閑居修行頭陀九法。乞食少欲靜默禪思觀身經行。亦爲人說施戒修德行業因果。而不能廣宣無畏。亦復不能降化詐僞惡人。當知是人不能自度。亦不度彼修持梵行獨善而已。… (中略) … 是故迦葉。諸優婆塞若王大臣當護持法。亦當降伏剃頭居士。有欲得護正法者。當如是學。迦葉。如是破戒不護法者名禿居士。非持戒者得如是名。

答) ある持戒比丘が衆生のために獅子吼し、衆生の利益と安楽のために九分経を説示する時に、破戒者たちが持戒比丘を殺してしまった。そのため、釈尊は正法を護持するために比丘を護ることを許し、在家の坊主たちを処罰することも許した。「在家の坊主」とは守護者を伴う者ではなく、破戒者を指すのである。

4. 釈尊の主張

- 如来は常住身・不壊身・金剛身・法身である。
- 金剛身は正法を護持することで得られる。
- 在家者は、戒律の遵守よりも、正法を護持する出家者を守ることを優先すべきである。そのためならば武器を携えてもよい。

5. 釈尊の過去物語—正法護持した者は妙喜世界に生まれる

- 昔、ナンダヴァルダナ (*Nandavardhana, dga' skyed, 歡喜增益, 難提跋檀) 如来の時代、世界は極楽世界のように広大で、豊か。
- ナンダヴァルダナ如来は、長い間この地に留まり、般涅槃した。その後、教えは長く続いたが、あと40年で正法が滅するという時に、大勢の眷属を引き連れ、獅子吼をなし、九分経を説くブツダダッタ (*Buddhadatta, sangs rgyas byin, 覺徳, 佛度達多) 比丘が現れた。それを聞きつけた顛倒した教えを説く破戒者たちが一団となって、ブツダダッタ比丘を殺そうと武器をもって彼のもとへと向かった (MTib§152 [6Kb])。
- その話を聞いたバヴァダッタ王は、正法を守るためにブツダダッタ比丘のもとに向かい、彼らと戦い、ブツダダッタ比丘は誰にも傷つけられず、代わりにバヴァダッタ王が剣や槍などが体中に刺さった状態になってしまった。
- ブツダダッタ比丘は、それを見て「正法を守るということは、そのようにしなければならない。汝は無量の法の恵みを備えるようになるだろう」と言った (MTib§152 [6Kc])。
- バヴァダッタ王は亡くなって、阿閼仏の世界に生まれ変わった。

- バヴァダッタ王は過去世の釈尊，正法を護持した功德によって金剛身を得た
- ブダダッタ比丘も，阿闍佉の世界に生まれ変わった。
※二人とも阿闍佉の優れた弟子になった。
- この時，共に戦った衆生たちも皆，阿闍佉の世界（妙喜世界）に生まれ変わった(MTib§152【6Kd】)。
- 釈尊は，あらためて迦葉菩薩に，正法護持の大切さを次のように説いた。

MTib§152【6KI】 D48b7, P48b7

de ltar na dam pa'i chos nub pa'i tshe
dam pa'i chos bsrung bar bya'o // de'i
 tshe rgyal por gyur pa de ni nga yin
 no // dge slong de ni sangs rgyas 'od
 srung yin te de ni yongs su mya ngan
 las 'das so // de ltar na dam pa'i chos
bsrung ba'i 'bras bu ni dpag tu med de
 / 'bras bu rnam par dag pa des na nga
yang rma bya mdongs ri mo can
mang pos brgyan pa lta bur gyur te /
mi shigs pa'i sku dang chos kyi sku
brnyes par gyur to //

したがって，正法が滅する時に正法を守るべきである。その時にその王であった者は私である。その比丘は迦葉仏であり，彼は般涅槃した。したがって，正法を守る果報は無量である。その清浄な果報の故に，私も孔雀の羽の目玉模様で飾られたかのようになり，不壊身と法身を得たのであった。

MCh.D:384a14 若有正法欲滅盡時。應當如是受持擁護。迦葉。爾時王者則我身是。說法比丘迦葉佛是。迦葉。護正法者。得如是等無量果報。以是因緣我於今日得種種相以自莊嚴。成就法身不可壞身

MCh.F:867a09 佛告迦葉。時國王者豈異人乎我身是也。時法師者迦葉佛是。迦葉。當知護持正法功德無量。我本以不惜身命護正法故。得此金剛不壞法身。

6. 法滅直前の状況

- 『大般涅槃經』では，妙喜世界を「正法護持者の世界」とみなすが，『阿闍佉国経』をはじめ，他の大乘經典にはこのような内容は見られない。
- 『阿闍佉国経』成立時には，妙喜世界を「正法護持者の国」とする考えはなかったが，『大般涅槃經』が成立する頃に新たに生じた。
- 『大般涅槃經』では，釈尊は自分の過去物語を述べ終わると，迦葉菩薩に「正法が滅する時に，正法を守るべきである (MTib§152【6KI])」と述べる。
 - ➔ 武器を所持する条件として，正法が滅するような危機的状況にあることが示されている。
 - ➔ では，**正法の滅亡が近い世の中は具体的にはどのような状況なのだろうか？**

MTib§152 [6Kb] D48a6, P48b2

de nas de'i bstan pa lo bye ba phrag du ma'i
bar du gnas gnas nas / gang gi tshe bstan pa
gnas pa de'i lhag ma lo bzhi bcu lus pa de'i
tshe dam pa'i chos nub tu cha ba'i dus na
dge slong sangs rgyas byin zhes bya ba g-
yog 'khor mang po dang ldan pa seng ge'i
sgra sgrogs pa gsung rab yan lag dgu'i chos
ston pa zhid byung ste / de bran dang / bran
mo dang / ba lang dang / ma he la sogs pa
rdzas ngan pa 'chang ba log pa'i chos ston
pa / tshul khriims 'chal pa sdang ba'i sems
dang ldan pa rnam kyis thos nas bsad pa'i
sams bskyed de / tshul khriims 'chal pa'i
phyogs rnam gcig tu bsad nas mtshon
cha sna tshogs lag na thogs te / dge slong
de'i thad du dong //

MCh.D:383c26 佛涅槃後正法住世無量億歲。餘四十年佛法未滅。爾時有一持戒比丘。名曰覺德。多有徒衆眷屬圍遶能師子吼。頒宣廣說九部經典。制諸比丘不得畜養奴婢牛羊非法之物。爾時多有破戒比丘。聞作是說。皆生惡心執持刀杖逼是法師。

それからその教えは多劫の間留まり、その教えが留まる残りが40年という時、正法がまさに滅亡しようとする時に、大勢の眷属を引き連れ、獅子吼をなし、九分経を説くブツダダッタと呼ばれる比丘が現れた。このことを、使用人や女性の使用人、牛、水牛などの悪物を所有し、顛倒した法を説き、戒を破り、憎しみの心をもった者たちが聞きつけると、「[ブツダダッタ比丘を]殺してやろう」と考え、その破戒者たちは一団となって様々な武器を携えてブツダダッタ比丘のもとに向かった。

MCh.F:866c24 彼佛在世無量億劫而般泥洹。遺法住世亦復無量億劫。如是餘四十年佛法未滅。時有比丘名佛度達多。出於世間大衆眷屬前後圍遶。成就無畏而爲說法。以九部經教諸比丘言。其契經說。不得畜養奴婢畜生及不應法物。諸犯戒者便起瞋恚。群黨相助欲害法師。

- 40年後に仏法が消滅するという末法の時代：

出家者でありながら、所有が禁止されているはずの使用人や家畜を所有し、誤った教えを説き、戒を守らない破戒者たちが横行している。

- そこに、多くの眷属を引き連れて正しい教えを説く清浄比丘が現れたので、破戒者たちは危機感を覚え、その清浄比丘の殺害を企てる。

→ 『大般涅槃経』では法滅の原因は「戒律を守らない出家者の登場」と考える

- 『阿閼佉国経』（紀元前後成立）では、正法の滅亡をどのように捉えていたか？

- 『阿閼佉国経』には正法護持に関する言及はないが、正法の滅亡については第5章「阿閼佉の入滅に関する章」に記される。

- 阿閼佉の入滅後、彼の語った正法は十億大カルパの間留まるが、大光明や大地震、大音声とともにやがて埋没する。しかしそれは悪魔のせいでも声聞のせいでもなく、人々に教えを聴聞する欲望がなくなり、それを知った法師が教えを説かなくなるからである。

※セクション番号は佐藤 2008 に基づく。

TibA§5.67 P58a2-6, D50b3-5

sha ra dwa ti'i bu bcom ldan 'das de bzhin gshegs pa dgra bcom pa yang dag par rdzogs pa'i sangs rgyas mi 'khrugs pa de'i dam pa'i chos ni bdud dang / bdud kyi ris kyi lha rnams kyis nub par byed par mi 'gyur/ de'i dam pa'i chos ni bcom ldan 'das kyi nyan thos rnams kyis kyang nub par byed par mi 'gyur gyi/ sha ra dwa ti'i bu gzhan du na de'i mi rnams dam pa'i chos nyan pa'i 'dun pa chung bar 'gyur te/ de dag 'dun pa chung bas na/ chos smra ba'i dge slong kyi drung du 'gro bar mi 'gyur ro// de dag der mi 'gro bas na dam pa'i chos thos par mi 'gyur ro// dam pa'i chos ma thos pas na sgrub par mi 'gyur ro// mi sgrub pas na gong ma'i khyad par 'thob par mi 'gyur zhing chos smra ba'i dge slong rnams kyis kyang mi de dag 'dun pa chung bar rig nas chos ston par mi 'gyur te/

ACh.L:761b19 其法不是慾魔及魔天之所滅。亦不是天中天弟子所滅。諸比丘稍樂寂往還是。稍寂共往還已。俱行不復大聽聞法。不聽聞已。亦不大承用。復不得大精進。法師比丘。於法教亦寂說法少。

舍利弗よ、世尊如来応供正等覚者である阿闍の正法は悪魔と悪魔の眷属の神々によって埋もれることはないだろう。その正法は世尊の諸声聞によっても埋もれることはなく、舍利弗よ、ある場所では、その人々は正法の聴聞の欲が小さくなり、彼らは〔聴聞の〕欲が小さくなるので、法師の比丘たちのそばに赴かなくなるだろう。彼らはそこに赴かないので、正法を聞かなくなるだろう。正法を聞かないので、成就しないだろう。成就しないので最高の特徴を手に入れることはなく、法師の比丘たちも、人々が〔聴聞〕欲が小さくなっていると知るので、法を説かなくなるだろう。

ACh.B:109c17 然彼非天魔之所能壞。亦非如来及聲聞衆而自沈隱。但由彼時人少有聽聞多無欲樂。能說法者皆悉遠之。既於正法寡聞轉增不信。不信增長則無宣。

《法滅直前の様子》

『阿闍仙国経』… 聴聞者と説法者の意欲の低下

『大般涅槃経』… 破戒者が清浄持戒出家者の殺害を企てる

- 両経典ともに、法の継承が困難な状況を示してはいる。
- 正法を守る重要性を説くのは『大般涅槃経』だけ
- 『阿闍仙国経』では、仏教徒の怠慢をたしなめる程度の記述
- 『阿闍仙国経』の時代（紀元前後頃）は、現実的には法滅の危機感はなかったのだろう。
- 『大般涅槃経』の時代（4世紀頃）になると、仏教徒の怠慢が進み、法滅が現実味を帯びてきていた。
 - ➔ 「法滅まであと40年」という具体的な数字
 - ➔ 法を護るためであれば、命をかける必要があるほどの危機に瀕していた

7. まとめ

● 法滅について

『阿閼仏国経』… 原因（上求菩提・下化衆生の意欲の低下）のみを記す。

正法継承のための具体的な方法については言及しない。

『大般涅槃経』… 破戒者が横行し、清浄な持戒出家者が殺される状況。

正法継承のための対策として、正法継承者である出家者を守るために、**在家者に対して武器の保持を許可する**

命をはって教えを守った者たちが讃えられ、彼らの生まれる場所として**妙喜世界（阿閼仏の世界）**が紹介される。

- 『阿閼仏国経』と『大般涅槃経』の法滅に関する記述の違いから、紀元前後の頃にはなかった法滅の危機が、4世紀頃には、現実的なものとなっていた可能性が高いと考える。
- 今後は、他經典にも範囲を広げて「法滅」の記述を検証し、「正法護持」の概念がいつ頃現れたのかを検討したい。

〈略号〉

AV *Akṣobhyatathāgatasya vyūha* (『阿閼仏国経』)

ACh.L 支婁迦讖訳『阿閼仏国経』全5巻, T11(vol. 313)

ACh.B 菩提流志訳『大宝積経 不動如来会』全6巻, T12(vol. 310)

ATib Jinamitra, Surendrabodhi, Ye shes sde 訳, '*Phags pa de bzhin gshegs pa mi 'khrugs pa'i bkod pa zhes bya ba theg pa chen po'i mdo*, P22(No.760-6), D15(No.50)

MPM *Mahāparinirvāṇa-mahāsūtra* (『大般涅槃経』)

MCh.D 曇無讖訳『大般涅槃経』全40巻, T12(vol.374)

MCh.F 法顕訳『大般泥洹経』全6巻, T12(vol.376)

MTib Jinamitra, Jñānagarbha, Devacandra 訳, '*Phags pa yongs su mya ngan las 'das pa chen po theg pa chen po'i mdo*, P31(No.788), D54(No.120).

〈参考文献〉

佐藤直実 2008 『蔵漢訳『阿閼仏国経』研究』山喜房佛書林。

佐藤直実 2005 「阿閼仏信仰の諸相」『日本仏教学会年報』70: 129-142.

下田正弘 1997 『涅槃経の研究—大乘經典の研究試論』春秋社。

下田正弘 1993 『蔵文和訳『大乘涅槃経』(I)』インド学仏教学叢書4, 山喜房佛書林。

松田和信 1988 『インド省図書館所蔵 中央アジア出土大乘涅槃経梵文断簡集—スタイン・ヘルンレ・コレクション—』東洋文庫。

Hiromi Habata. 2013. *A Critical Edition of the Tibetan Translation of the Mahāparinirvāṇa-mahāsūtra*, Contributions to Tibetan studies ed. David P. Jackson, v. 10, Dr. Ludwig Reichert, Wiesbaden.

Hiromi Habata. 2007. *Die Zentralasiatischen Sanskrit-Fragmente des Mahāparinirvāṇa-*

mahāsūtra : kritische Ausgabe des Sanskrittextes und seiner tibetischen Übertragung im Vergleich mit den chinesischen Übersetzungen, Indica et Tibetica: Monographien zu den Sprachen und Literaturen des indo-tibetischen Kulturraumes, Bd. 51, Indica et Tibetica, Marburg.

-
- ⁱ AVの成立時期などについては佐藤 2008: 67-70 参照。
- ⁱⁱ 阿闍仏と妙喜世界に言及する大乘経典については佐藤 2005 を参照。
- ⁱⁱⁱ 最も多く阿闍仏に言及するのは『悲華経』であり、第4章では阿闍仏の本生話が述べられている。次に多いのは小品系『般若経 *Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā*』。第19, 27, 28章に記述がある。『維摩経』は「見阿闍品」で紹介される。詳細については佐藤 2005 及び佐藤 2008: 43-47 を参照。また、西野翠 2009 「『阿闍仏国経』と『維摩経』の一考察」印仏研 58(1): 156-161 では、空・不二の法と不動（阿闍）を同義とみなし、不二の獲得を重視する維摩にとって、阿闍仏の仏国土がその故地として適当であると考えられたのではないかと述べている。
- ^{iv} 松田和信氏や幅田裕美氏によってテキストが公刊されている。松田 1988: 30-35, Habata 2007: 68-69